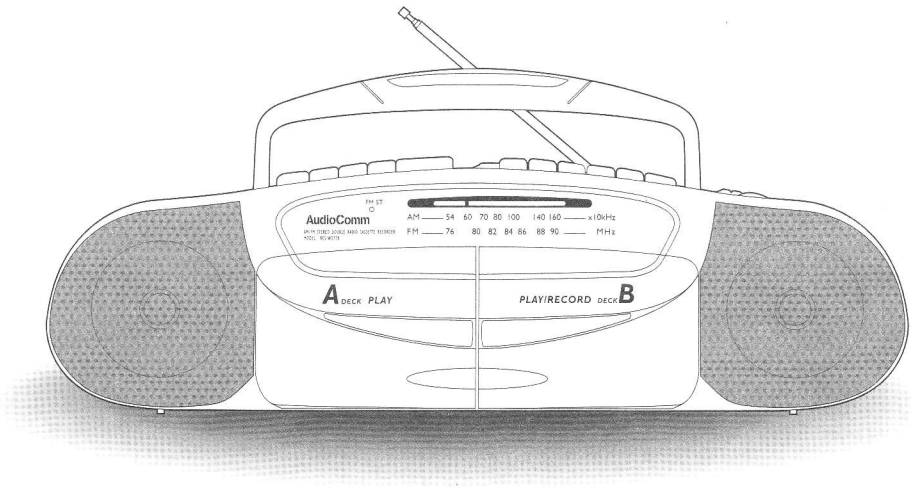
AudioComm®

取扱説明書

AM/FM
ステレオダブルラジオカセットレコーダー

型番 :RCS-W377K-S

保証書付



このたびは、AudioComm®
ステレオダブルラジオカセットレコーダーを
お買い上げいただき
誠にありがとうございました。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱い方を示しています。**"この取扱説明書をよくお読みの上、製品を安全にご使用ください。"** また、お読みになった後も、ご使用時にいつでも見られるよう大切に保存してください。

目次

安全にお使いいただくために …… 2~3
電源について …… 4
カセットテープについて …… 5
各部の名称 …… 6~7
ラジオを聴くには …… 8
テープを聴くには …… 9
カラオケとして使うには …… 10
ラジオの音を録音するには …… 11
ダビング録音をするには …… 12
マイク（別売）を接続して音声を録音するには …… 13
カラオケを録音するには …… 13
ヘッドホンの使用 …… 13
故障かなと思ったら …… 14
ラジオカセットレコーダー使用上の注意 …… 14
お手入れ方法 …… 15
主な仕様 …… 15
保証とアフターサービス …… 15
保証書

安全上のご注意

電気製品は間違った使い方をすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって３段階に表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取扱をすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取扱をすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

	△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は感電注意が描かれています。)
	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。(左図の場合は分解禁止が描かれています。)
	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。(左図の場合は、電源プラグをコンセントから抜く、が描かれています。)

⚠警告

異常の時はコンセントから抜く	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理を依頼してください。
水が入った場合はコンセントから抜く	●万一、内部に水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
異物が入った場合はコンセントから抜く	●万一、機器の内部に異物が入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
分解禁止	●本体を修理、改造しないでください。火災・感電の原因となります。
禁止	●この機器を使用できるのは日本国内のみです。自動車・船舶などの直流 DC 電源には接続しないでください。火災の原因となります。
コードを交換する	●電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止し、修理をご依頼ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
接触禁止 感電に注意	●雷が鳴り始めたら、安全のため電源プラグを抜いてください。
水かけ禁止	●浴室やシャワー室など、湿度の高いところや水はねのある場所では使用しないでください。火災や感電の危険があります。
禁止	●付属の電源コード(AC コード)は本製品専用です。本製品をご使用の際には必ず付属の電源コード(AC コード)をお使いください。また、付属の電源コード(AC コード)は絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。
禁止	●表示された電源電圧交流 100 ボルト以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
電池に注意	●乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が乾電池を誤って飲み込むことがないようにしてください。 乾電池は幼児の手の届かないところへ置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。
禁止	●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本体の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。 コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気づかず重いものをのせてしまうことがあります。
禁止	●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱・したりしないでください。コードが破損して火災・感電の原因となります。

※この製品の故障、誤動作、不具合などによって発生した次にあげる損害などの附随的損害補償につきましては、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

●お客様または第三者がCD、テープまたは外部接続機器へ記録された内容の損害

●録音、再生などお客様または第三者が製品利用の機会を逸したことによる損害

⚠ 注意

禁止	●調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。	禁止	●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。 ●電源プラグを抜く時は、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	●ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。	コンセントから抜く	●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部機器などのコードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。 コンセントから抜く時は必ずプラグ部分を持って抜いてください。
禁止	●電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。	アンテナに注意	●移動させる場合は、アンテナをたたんでください。伸ばしたまま持ち運ぶとワイヤーアンテナが引っ掛かったり、踏んだりなどして断線、またはけがの原因になることがあります。
禁止	●窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。 キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。	指を挟まれないように注意	●お子様がカセットテープ挿入口に手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
禁止	●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。	音量に注意	●ご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。 近隣の迷惑になるとともに、耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
乾電池の電極性に注意	●電池を入れる時は、極性表示(プラス+とマイナス−の向き)に注意し、表示通り正しく入れてください。 間違えますと電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	コンセントから抜く	●旅行などで長時間本機をご使用にならない時は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外してください。火災・液もれの原因となることがあります。
禁止	●指定以外の乾電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使わないでください。乾電池の破裂・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。	禁止	●電磁波を発生させる機器（携帯電話、テレビ、モニター等）に近づけないでください。電磁波により、お互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。
コンセントから抜く	●お手入れの際には安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となることがあります。		

乾電池を安全にお使いいただくために

乾電池の液もれ、発熱、破裂等の事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

⚠ 警告	火中への投入、加熱、分解をしない／ショートさせない／新しい電池と使用した電池、種類の異なる電池（マンガンとアルカリ）を混ぜて使わない	⚠ 注意	+−の表示通りに入れる／指定以外の乾電池を入れない／使い切った乾電池はすぐに取り出す／しばらく使わない時は乾電池を取り外しておく

●万一液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。

●万一、もれた液が目に入った時は、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。

●使用済みの電池を廃棄するとき、自治体の条例などで決まりがある場合にはそれに従って廃棄してください。

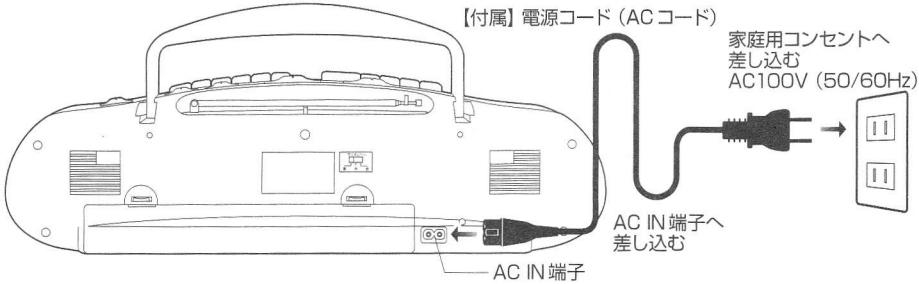
電源について

⚠ 電源コードを抜き差ししたり、電池を出し入れする時は、ファンクションスイッチを「テープ(ラジオ切)」側にして電源が切れた状態で行ってください。

⚠ 電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用コンセントで使うには

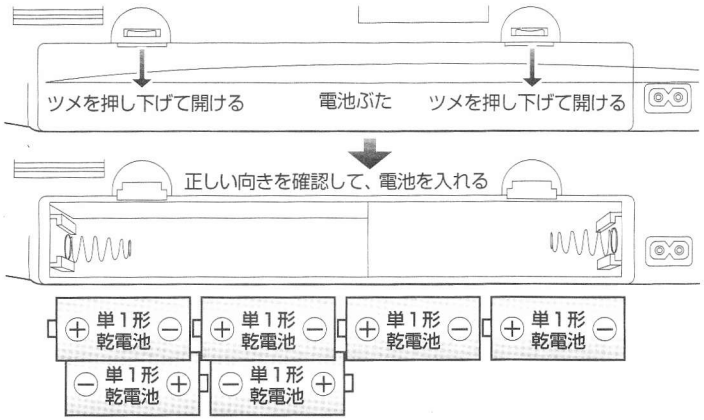
付属の電源コードを本機裏側にあるAC IN端子へ接続した後、家庭用コンセントへプラグを差し込んでください。
※大切な録音をする時は、付属の電源コードのご使用をお薦めします。



※付属の電源コード（ACコード）は本製品専用です。本製品を家庭用コンセントでご使用の際には必ず付属の電源コード（ACコード）をお使いください。また、付属の電源コード(ACコード)は絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。

乾電池(別売)で使うには

1. 本機裏側の電池ぶたを開けてください(下図参照)。
2. 電池ボックス内部に表示してある通りに、単1形乾電池(別売)を6本、＋－の向きに注意しながら正しく入れます。
3. 電池を入れ終えたら、電池ぶたを元通りにパチンと音がするまで閉めてください。



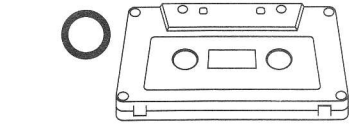
注意 種類の異なる電池や、新しいものと古いものを混ぜて使用しないでください。液もれの原因になり、本機が故障する場合があります。

※乾電池で使う時は、電源コードが本機裏側のAC IN端子から抜かれていることをお確かめください。接続されたままですと乾電池では使用できません。
※乾電池交換の目安として、乾電池が消耗すると、テープ走行が不安定になったり、雑音が多くなったりします。このような状態になったら、乾電池を新しいものと交換してください。

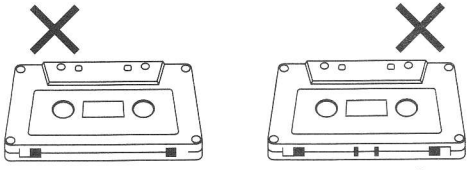
カセットテープについて

使用できるテープの種類

ノーマルテープ（TYPE Ⅰ）をお使いください。ハイポジションテープ（TYPE Ⅱ）やメタルテープ（TYPE Ⅳ）には対応しておりませんし、ご使用になると録音・再生ヘッドを傷める原因となります。またノーマルテープの場合でも、C-90以上の長時間テープは通常のカセットテープに比べてテープそのものが非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれる等のトラブルの原因となりますので使用しないでください。



ノーマルテープ（Type Ⅰ）

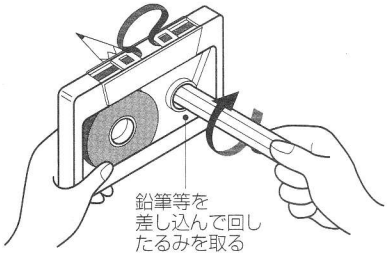


ハイポジションテープ（Type Ⅱ）

メタルテープ（Type Ⅳ）

カセットテープのたるみについて

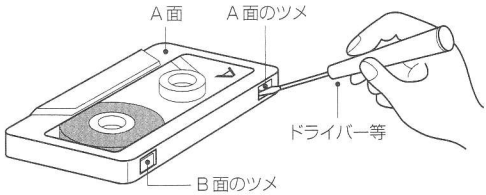
ご使用の前に、テープのたるみを取り除いてください。たるんだ状態で使用すると、テープが機械に巻き込まれ、使えなくなることがあります。



●カセットテープの両端のリーダーテープ部分は録音ができません。録音前にはこの部分を送っておきましょう。
●カセットテープを入れたまま放置するとからみや巻きつきの原因となります。必ず本機から取り出して保管してください。
●テープの損傷を避けるため、大事なテープやオリジナルテープはダビングし、ダビングしたテープを本機でお使いください。

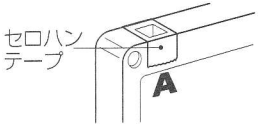
録音した内容を誤って消去しないために

カセットテープの背面にある誤録音防止用のツメをドライバーで折ります。



ツメを折ったカセットテープにもう一度録音するには

ツメを折った穴をセロハンテープ等でふさぎます。

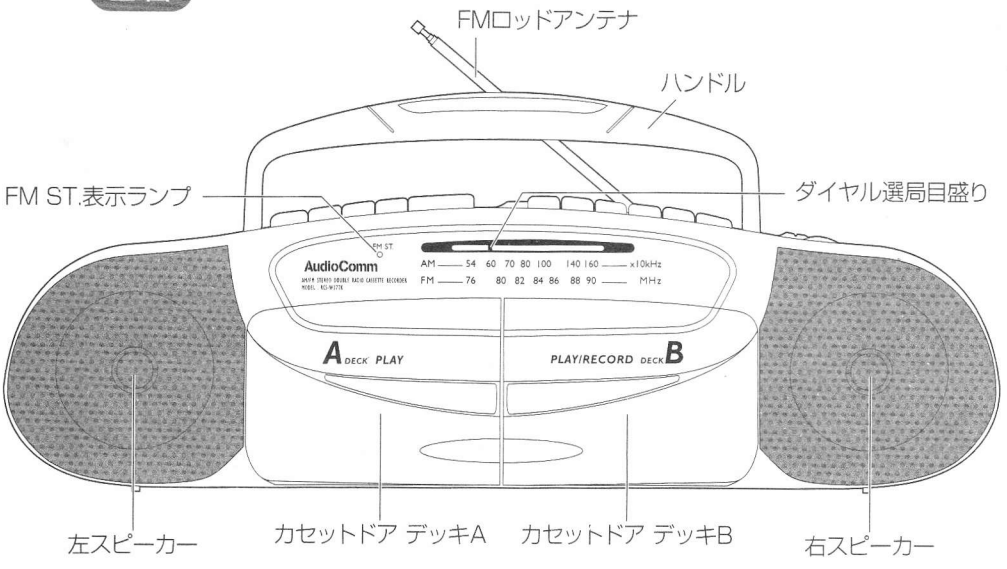


注意　著作権について

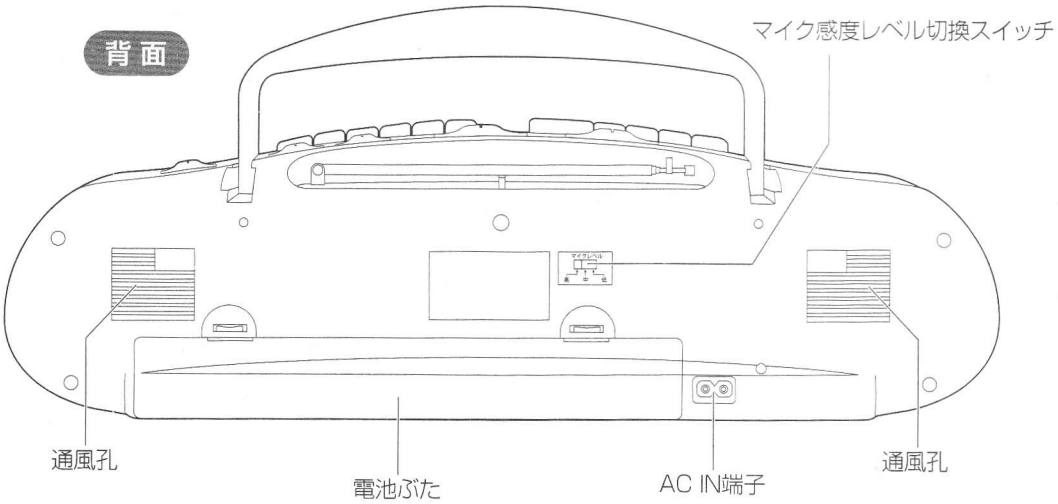
放送やレコードその他の録音物（ミュージックテープ）、カラオケテープ、コンパクトディスクなど）の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従って、そこから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

各部の名称

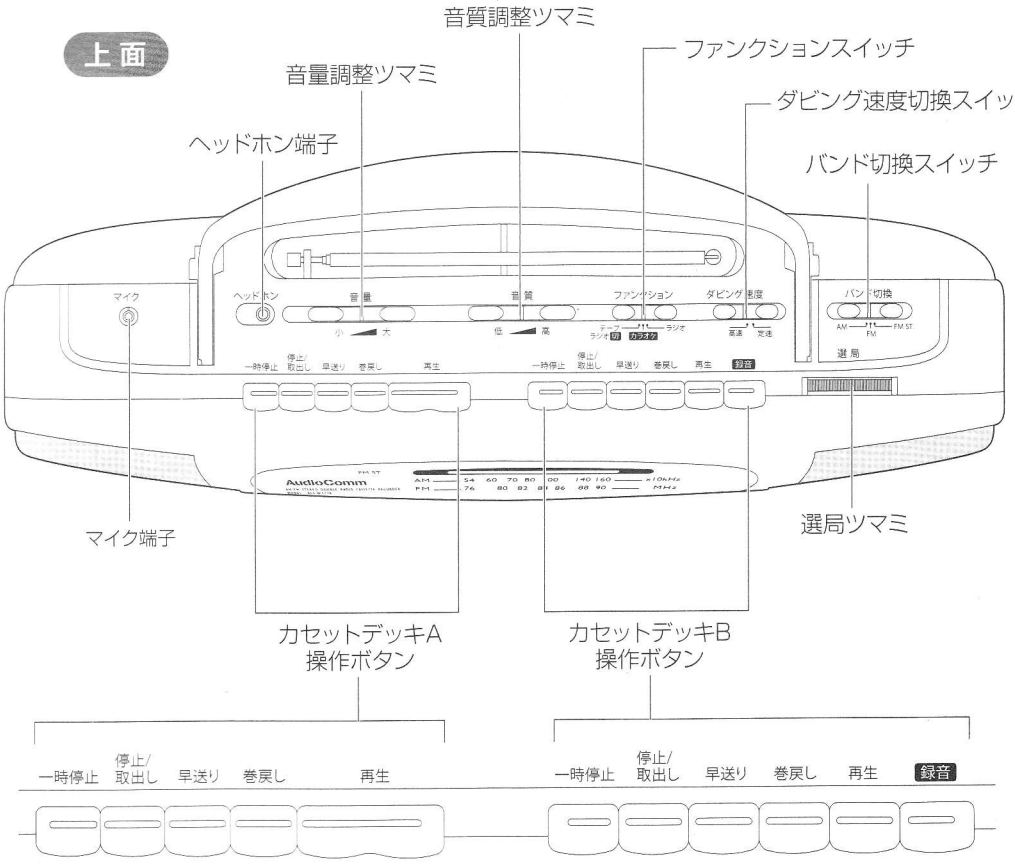
正面


FMロッドアンテナ
ハンドル
FM ST.表示ランプ
ダイヤル選局目盛り
FM ST.
AudioComm
AM 54 60 70 80 100 140 160 x10kHz
FM 76 80 82 84 86 88 90 MHz
A DECK PLAY
PLAY/RECORD DECK B
左スピーカー
カセットドア デッキA
カセットドア デッキB
右スピーカー

背面

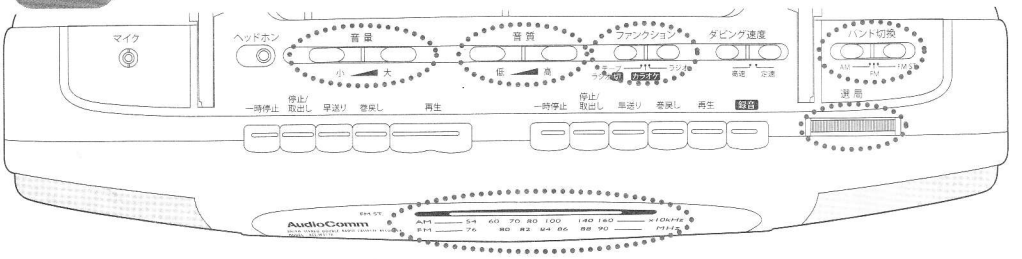

マイク感度レベル切換スイッチ
通風孔
電池ぶた
AC IN端子
通風孔

上面

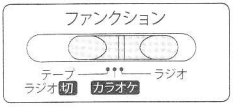

音質調整ツマミ
ファンクションスイッチ
音量調整ツマミ
ダビング速度切換スイッチ
ヘッドホン端子
バンド切換スイッチ
マイク
ヘッドホン
音量
音質
ファンクション
ダビング速度
バンド切換
選局
マイク端子
選局ツマミ
カセットデッキA
操作ボタン
カセットデッキB
操作ボタン
一時停止
停止/
取出し
早送り
巻戻し
再生
録音

ラジオを聴くには

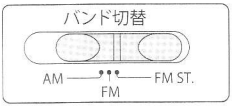
上面



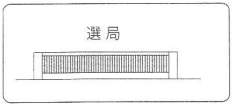
1 ファンクションスイッチを「ラジオ」に合わせます。



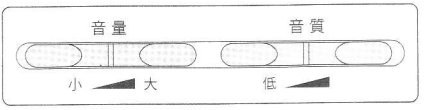
2 バンド切換スイッチで「AM」「FM」「FM ST.（ステレオ）」のいずれかを選びます。「FM ST.（ステレオ）」を選択すると、ステレオ放送を受信した時に、「FM ST. 表示ランプ」が点灯します。



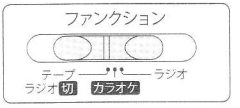
3 選局ツマミを回して聴きたい放送局を選局します。



4 音量調整ツマミ／音質調整ツマミでお好みの音量・音質を調整します。



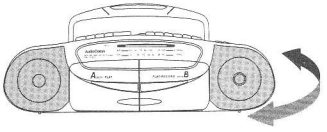
5 ラジオを切る時は、ファンクションスイッチを「テープ（ラジオ切）」に合わせます。



受信状態をよくするには

●AM放送の受信

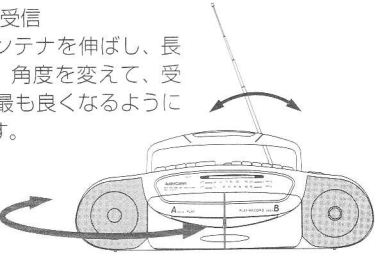
本機にバーアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



※テレビや蛍光灯の近くでAMを受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機を離してご使用ください。

●FM放送の受信

ロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて、受信状態が最も良くなるように調節します。



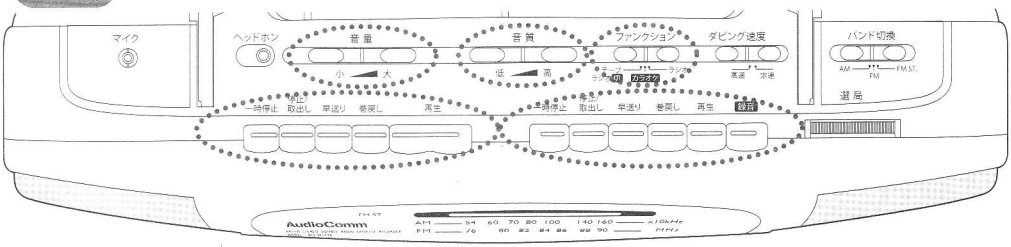
注意

・持ち運び時は、目をついたり危険ですので、FMロッドアンテナは縮めた状態で持ち運んでください。

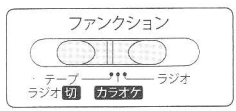
・近隣への迷惑にならないよう、音量には十分注意してください。

テープを聴くには

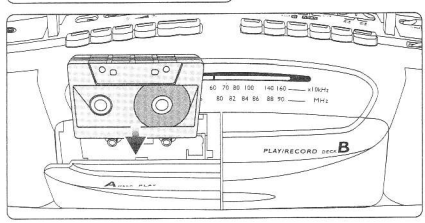
上面



1 ファンクションスイッチを「テープ（ラジオ切）」に合わせます。

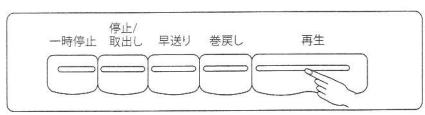


2 本機はダブルカセットデッキですので、デッキA、デッキBのどちらでもカセットテープを再生できます。
デッキA、またはデッキBの停止／取出しボタンを押してカセットドアを開け、カセットテープを正しく装着し、カセットドアを確実に閉めてください。

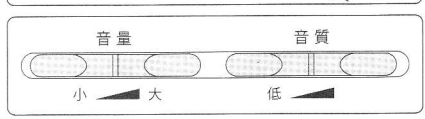


【正しい装着方法】
カセットテープは聴きたい面を手前に、テープの見える方を上にして装着してください。テープは右から左へ走行します。

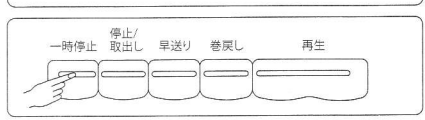
3 再生ボタンを押してテープを再生します。



4 音量調整ツマミ／音質調整ツマミでお好みの音量・音質を調整します。



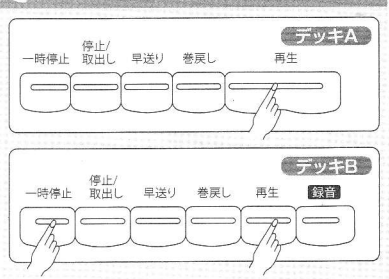
5 テープを止める時は、停止／取出しボタンを押すと、テープ走行が止まります。テープが止まった後、再度、停止／取出しボタンを押すと、カセットドアが開きます。カセットテープを取り出して、カセットドアを閉めてください。



コンティニュアスプレイ（連続再生機能）について

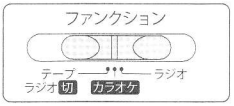
本機は、デッキAから、デッキBへの連続再生が簡単にできます。

1 先に聴きたいテープをデッキAに、次に聴きたいテープをデッキBにセットします。
2 デッキAを再生します。
3 デッキBの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押して一時停止状態にします。デッキAのテープ片面の再生が終わると、デッキBの一時停止が解除され、再生が始まります。

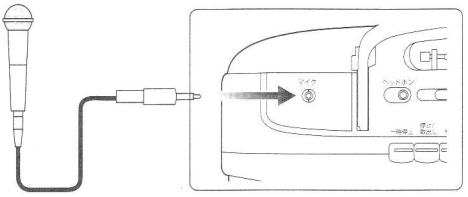


カラオケとして使うには（別売のマイクが必要です）

1 ファンクションスイッチを「テープ（ラジオ切）」または「カラオケ」に合わせます。

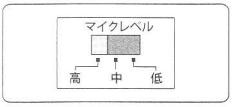


2 別売マイクのプラグ（φ3.5mmミニプラグに対応）を本機のマイク端子に差し込みます。

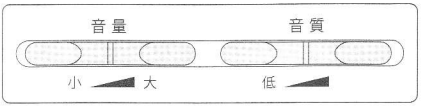


3 デッキA、またはデッキBに再生するカセットテープを装着します。カセットテープが装着されたデッキの再生ボタンを押してカラオケを再生します。

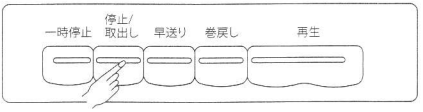
4 マイクに向かって同時に歌います。マイクの音声が小さい時や、ハウリングを起こしている場合は、本機背面にある「マイク感度レベル切換スイッチ」と本機上面の音量調整ツマミでお好みの状態に調節します。



5 音質調整ツマミでお好みの音質に調整します。



6 カラオケを終える時は、停止／取出しボタンを押して電源を切ります。再度、停止／取出しボタンを押すとカセットドアが開きます。



※カセットテープを装着せずにデッキAまたはデッキBの再生ボタンを押して上記の操作をすれば、マイクとして使用できます。

⚠ 近隣への迷惑にならないよう音量には十分ご注意ください。

カセットデッキの機能について

カセットデッキ部操作ボタンの機能一覧

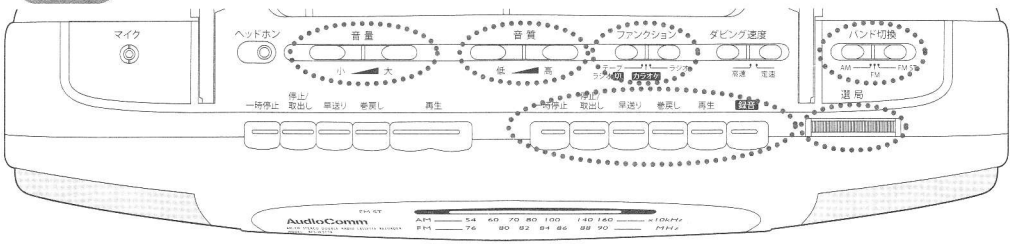
一時停止……録音や再生を一時中断します。再度押すと再び録音や再生を開始します。
停止／取出し……押すとカセットドアが開きます。早送り・巻戻し・再生・録音中に押すとそれらの動作を停止します。
早送り……テープを左側のリールに早送りします。
巻戻し……テープを右側のリールに巻き戻します。
再生……テープを再生します。
録音……テープに録音します（デッキBのみ）。このボタンを押す時、再生ボタンも一緒に押し込まれ、録音状態になります。

※録音・再生・早送り・巻戻しは、必ず停止／取出しボタンを押してテープ走行を停止させてから行ってください。

フルオートストップ機能	テープの録音を消去するには
再生・録音・早送り・巻戻し時に、テープが終わりまで行くと自動的に止まり、押し込まれていた操作ボタンも自動的に上がります。	録音されたテープの上から新たな録音をすると、前の録音は消去されます。

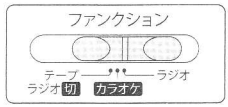
ラジオの音を録音するには　デッキBのみ録音ができます

上面

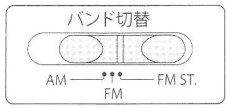


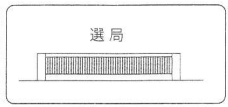
※録音レベルは、自動調節で一定に録音されますので、録音時に音量・音質両調整ツマミを操作しても録音に影響はありません。※大切な録音をする時は、付属の電源コードのご使用をおすすめします。

1 ファンクションスイッチを「ラジオ」に合わせます。

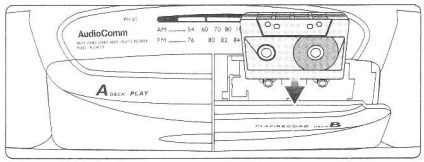


2 録音したいラジオ放送を受信します。

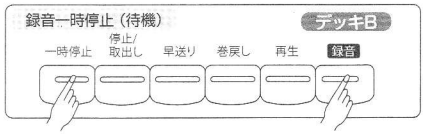




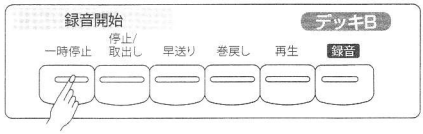
3 デッキBに録音可能なカセットテープを正しく装着します（録音する面を手前に、テープの見える方を上にして装着します）。



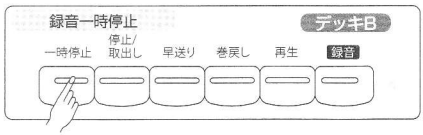
4 デッキB（以下同）の一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押して録音一時停止状態にします（録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に押されます）。



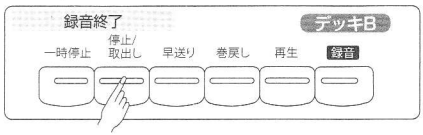
5 再度、一時停止ボタンを押すと録音が始まります。



6 録音を止めるには、一時停止ボタンを押します。



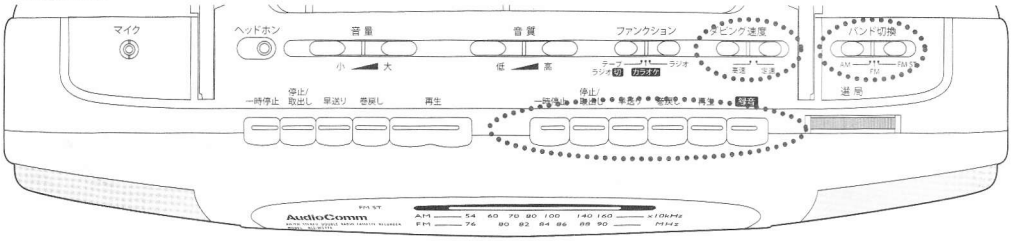
7 録音終了時は、停止／取出しボタンを押します。



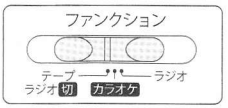
ダビング録音をするには

本機では、デッキAからデッキBへの
ダビング録音(シンクロダビング)が簡単にできます。

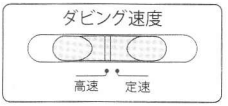
上面



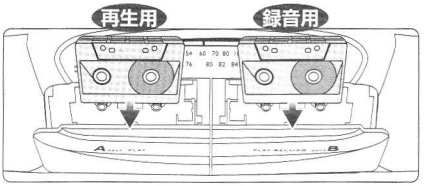
1 ファンクションスイッチを「テープ（ラジオ切）」に合わせます。



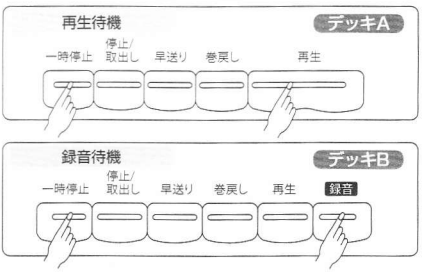
2 ダビング速度切換スイッチで高速か定速を選びます。



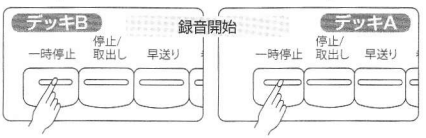
3 デッキAに再生用カセットテープを、デッキBに録音可能なカセットテープを正しく装着します。



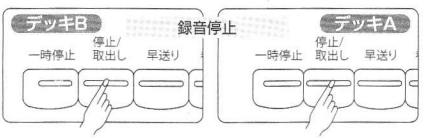
4 デッキAの一時停止ボタンを押した後、再生ボタンを押します。次にデッキBの一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します。



5 デッキB、次にデッキAの順で一時停止ボタンを押してダビング録音を開始します。



6 ダビング録音を終了する時は、デッキAとデッキBの停止／取出しボタンを押します。



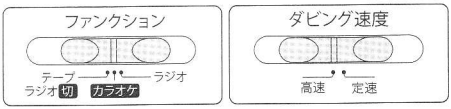
ご注意

※ダビング録音時は、マイク音声の混入防止のため、必ずマイクのプラグをマイク端子から抜いてください。
※ダビング速度切換機能は、ファンクションスイッチがテープ時のみ機能します。

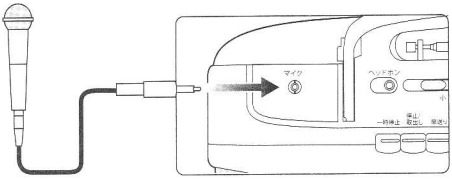
マイク(別売)を接続して音声を録音するには

1 ファンクションスイッチを「テープ（ラジオ切）」に合わせます。

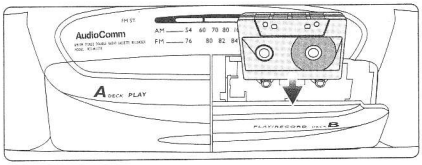
2 ダビング速度切換スイッチを「定速」に合わせます。



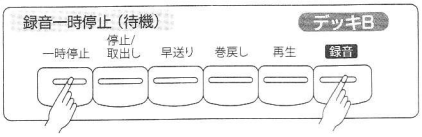
3 別売マイク（φ3.5mmミニプラグに対応）のプラグを本機のマイク端子に差し込みます。
☞マイクの感度調節等は「カラオケとして使うには」の項参照



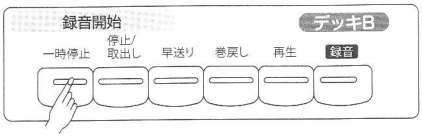
4 デッキBに録音可能なカセットテープを正しく装着します。



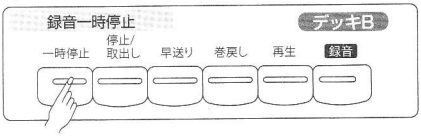
5 デッキB（以下同）の一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押して、録音一時停止状態にします（録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に押されます）。



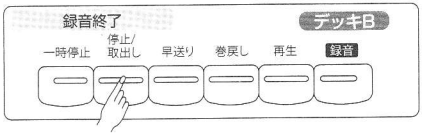
6 再度、一時停止ボタンを押すとマイク録音が始まります。



7 マイク録音を止めるには、一時停止ボタンを押します。



8 録音終了時は停止／取出しボタンを押します。



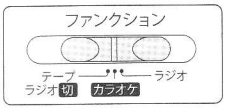
カラオケを録音するには

1 ファンクションスイッチを「カラオケ」に合わせます。

2 別売マイク（φ3.5mmミニプラグに対応）をセットします。
☞「カラオケとして使うには」参照

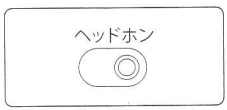
3 前ページ「ダビング録音をするには」のステップ3以降と同じ手順でダビング録音を開始し、同時にマイクに向かって歌います。

4 録音終了の操作も「ダビング録音」のステップ6と同じです。



ヘッドホンの使用

別売のヘッドホン（φ3.5mmミニプラグ）をヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。



●ヘッドホンをご使用になる時は音量を上げすぎないようにご注意ください。
●付属の電源コードでご使用時、ヘッドホンでお聴きになると、ハム音（ラジオなどの音声に混じって聴こえる「ブーン」という音）が耳障りになる時があります。その場合は乾電池にてご使用ください。

故障かなと思ったら

本機の調子がおかしい時は、サービスをご依頼になる前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店または当社サービスセンターにご連絡ください。

症状	チェック項目
動作しない	電源コードがはずれて（ゆるんで）いませんか？
	乾電池が正しく入っていますか？
	乾電池が消耗していませんか？
音が出ない	音量調整ツマミの音量が最小になっていませんか？
	ヘッドホンジャックにヘッドホンが差し込まれていませんか？
	ファンクションスイッチが適切な位置になっていますか？
カセットドアが閉まらない	カセットが逆向きではありませんか？
	操作ボタンを押していませんか？
テープが走行しない	一時停止ボタンが押してありませんか？
テープ走行が不安定	テープがたるんでいませんか？
	乾電池が消耗していませんか？
テープが機械に巻きつく	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか？
	テープがたるんでいませんか？
	カセットドアがきちんと閉まっていますか？
録音ボタンが押せない	録音しようとするカセットの誤消去防止用のツメが折れていませんか？
	カセットドアがきちんと閉まっていますか？
	カセットが入っていますか？
前の録音を完全に消去できない 録音した音がひずむ	ハイポジション（TypeⅡ）やメタルポジションテープ（TypeⅣ）を使っていませんか？
	消去ヘッドが汚れていませんか？
雑音がひどい、音が震える 音飛びがする、高音が出ない	ヘッドやピンチローラー、キャプスタンが汚れていませんか？
	テープがたるんでいませんか？
	乾電池が消耗していませんか？
ラジオ時に雑音が入る	近くで携帯電話を使用していませんか？ （携帯電話を本機から離して使用してください。）
	テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。またテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このような時は本機をテレビから離してください。
録音できない	ヘッドが汚れていませんか？
	誤消去防止用のツメが折れていませんか？
マイクの音が出ない	ファンクションスイッチが適切な位置になっていますか？
	マイク感度レベル切換スイッチの設定が「低」になっていませんか？

ラジオカセットレコーダー使用上の注意

●ラジオから録音する場合は、受信状態が十分安定していることをお確かめの上、録音されることをおすすめします。受信状態が悪いと録音状態も悪くなります。

●カセットテープの装着は正確かつ丁寧に行ってください。装着が不確実ですと、テープが絡まる、巻き取らない、操作ボタンが押せない等のトラブルが生じます。なお、ご使用中のカセットテープの故障及び破損につきましては一切責任は負えませんのでご了承ください。

●近隣への迷惑にならないよう、音量には十分注意してください。

お手入れ方法

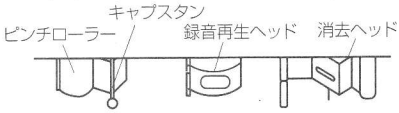
●本体のクリーニング

本体の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れのひどいときは布をぬるま湯か、薄めた中性洗剤で湿らせ、軽く拭いたあと、から拭きしてください。
シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、絶対に使用しないでください。

シンナー、ベンジン、アルコールは使用しない

●カセットヘッド部分のクリーニング

ヘッド、キャプスタン、ピンチローラーなどテープと接触する面の汚れは雑音や不安定なテープ走行の原因となります。定期的に（約20時間のご使用を目安に）、市販の綿棒に無水アルコールかクリーニング液を少し含ませてヘッド部分の汚れを丁寧に拭き取ってください。この時、綿棒がキャプスタンやピンチローラーに巻き込まれないようご注意ください。



主な仕様

●共通部

定格出力	1.2W+1.2W
周波数特性	100～8000Hz
スピーカー	77mm×2
電源	AC100V 50／60Hz
	DC9V 単1形乾電池6個
定格消費電力	8W
外形寸法	498（W）×148（H）×166（D）mm
	（ハンドルを収納した状態）
重量	約2.2Kg（乾電池含まず）
乾電池の寿命（目安）	ラジオ再生時 アルカリ乾電池：約130時間 マンガン乾電池：約50時間 テープ再生時 アルカリ乾電池：約40時間 マンガン乾電池：約15時間 （音量中位で使用した場合）

●カセットデッキ部

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ方式
ワウ・フラッター	0.35%以下

●チューナー部

受信周波数	FM：76～90MHz
	AM：530～1605kHz
アンテナ	FM：ロッドアンテナ
	AM：内蔵フェライトバーアンテナ

付属品	電源コード
	取扱説明書／保証書

※仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
※取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

保証とアフターサービス

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容および「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめの上、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理係にご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理係にご相談ください。